

## 「小学校再編」に関する取り組みについて

「山元町小・中学校再編方針」に基づき、小学校を1校に再編することにより、児童の社会性等の育成を図るとともに、学校教育の充実ひいては「魅力ある学校づくり」を推進する。

### 1 小学校再編方針と「魅力ある学校づくり」

児童生徒にとってよりよい学びができる環境をつくる。

- ・クラス替えのできる学校規模
  - ・複式学級は避けるべき
- ⇒人数規模を前提 社会性等の育成を優先した考え方

どんな学校にするのか、学校づくりも考えるべき。

### 「学校教育の充実」「魅力ある学校づくり」 (みのりプロジェクト推進事業)

児童相互の豊かな交流・社会性等の育成・児童の夢や志の実現

※「小・中連携」推進から「小・中一貫」も視野に入る。

### 3 全体の想定スケジュール

#### (1) 全体スケジュール

主体	項目	前期			中期		後期			
		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
あり方検討 委⇒教委	① 「魅力ある学校づくり」に向けた学校形態の検討		R5. 9～R7. 8							
町・教委	②学校規模と工事費等の確認及び町財政の可否の確認 概算工事費確認（業務委託）		R5. 9～R7. 8							
	③ ①を踏まえた校地・校舎の設置の仕方の検討		R6. 6～R7. 8							
町長 執行部 (庁内委員会 設置)	④ ①②③を踏まえた町の意向 検討・判断		R5. 9～R7. 8		R7. 9～11					
	⑤ ④についての議会への説明 (途中、進捗は随時)			R7. 11, 12						
教委	⑥ 設計（基本・実施）及び工事				R8. 4～R12. 2					
準備委 ・教委	⑦ 小学校閉校及び開校準備 (教育課程の編成含む)				R9. 4～R12. 2					
町・教委	⑧ 再編小学校開校								★	☆

#### (2) その他

⑥は令和7年12月補正（債務負担）を想定

⑧は令和12年度を見込むが、立地や設計等の状況により、後ろに押すこともあり得る。

## 2 前期 学校形態検討から、町判断までの流れ

「山元町再編小学校あり方検討委員会」を設置し、再編の望ましい形態や学校づくりにおける魅力・特色等について検討・意見をもらう。最終的な「校地・校舎の設置」は「庁内委員会」を設置し、町が判断することとする。

### 山元町再編小学校あり方検討委員会 検討・意見

#### (1) 学校形態（魅力・特色ある教育）

##### ① 学校形態に伴うメリット・デメリットの確認

- ・事例報告等文献による確認
- ・先進自治体等の視察

##### ② 教育活動面からの検討 ※学校づくりにおける魅力や特色等について検討

- ・小中連携教育（小・中学校の教員が相互に情報交換や交流。小学校教育から中学校教育への進学を円滑に行うことを目指す教育上の取組）
- ・小中一貫教育（校）（小学校と中学校の義務教育期間の9年間で行われる一貫した系統的・継続的な教育。小・中学校はそれぞれ組織として独立、校長は各校に1人、教員は校種に応じた免許所有）
- ・義務教育学校（初等教育（小学校教育）と前期中等教育（中学校教育）までの義務教育を一貫して行う。修業年数は9年、小学校課程6年、中学校課程3年という枠組にとらわれず、「5-4」「4-2-3」など設置者の判断により柔軟に変更可能。組織は一体化、全体で校長1人副校長1人。原則、教員は小・中学校両方の免許所有）

##### ③ 施設面からの検討 ※下記(2)と関連

- ・施設一体型（同じ敷地内の同一校舎）
- ・施設併設（隣接）型（同じ敷地内の別校舎隣接する敷地の別校舎）
- ・施設分離型（敷地・校舎は別ながらも連携（一貫）は可能）

#### (2) 校地・校舎の設置 ※上記(1)(3)及び下記(3)と関連

- ・新たな用地に完全新築
- ・現在の校地内に新築
- ・現在校を増改築

（※小学校施設整備指針（国）との整合【校地環境・周辺環境・通学環境他】）

#### (3) 工事費等の確認・補助の内容・財政面の確認

- ・概略設計業務委託（概略工事費、工期を算出）
- ・現在校の制度上の問題、築年数、敷地面積等を踏まえた新築・増改築の可否（体育館・給食センター含む）
- ・学校形態と校地・校舎の設置による概算工事費確認
- ・学校施設補助の確認（県他）

## 最終的な町の判断

### 議会等への説明

## 4 中期（基本・実施設計等）

## 5 後期（工事等）